

# 地域施設のコーディネーター人材養成と地域住民のまちづくり技術向上に向けた人材養成のためのプログラム開発に関する基礎調査

代表者コミュニティデザイン学科 石井大一朗

協力者①基盤教育センター 桑島英理佳②宇都宮市みんなでまちづくり課 井上俊邦③宇都宮市北市民活動センター 後藤安之

## 研究背景と目的

宇都宮市では、市内を39地区に分け、各地区に地域行政機関である地区市民センター等（以下、センター）を設置し、地域まちづくり活動の支援を担う行政職員を配置し、地域住民との協働のまちづくりを進めつつある。また、地域では、担い手の高齢化や固定化による団体支援の必要性、複雑困難化する暮らしのニーズへの対応などが喫緊の課題となっており、上述した地域まちづくりの中核施設としてセンターと連携・協働した取り組みが必要となっている。

こうした状況の中、センター職員の資質の向上と、地域住民のまちづくり技術の向上を目指し、人材養成プログラムを、所管する市民まちづくり部や教育委員会、およびセンター職員（以下、市担当チーム）と共に共同開発する。このための基礎調査を、モデル地域を対象として行う。調査は、特にコミュニティアセスメント手法の開発と地区類型別に見たまちづくり支援技術の特性、地域住民の主体形成における資源活用の汎用性に着目して行う。

## 宇都宮市の地域行政機関（コミュニティ施設）と地域づくりの関係

< 中心部 >

市民活動センター  
(中心部に計5館配置)



③ ↓ ↑ ④

地域コミュニティセンター  
(概ね小学校区に26館)



⑦ ↓ ↑ ⑧

- ①⑤：地域リーダーへの情報提供等の支援
- ②⑥：施設の利用、活動相談
- ③：コミュニティセンター事業の支援
- ④：コミュニティセンター事業の相談
- ⑦：貸し室の提供、情報提供
- ⑧：貸し室の利用

< 郊外部 >

地区市民センター  
(2自治センター含め13館)



⑤ ↓ ↑ ⑥

住民（自治会、ボランティア等）

## 成果

### 2つのまちづくり人材養成プログラム開発に向けた基礎調査

#### 1. 地域施設のコーディネーター人材養成

市担当チームが主宰する、地域コミュニティ施設職員を対象とした人材養成研修のためのプログラム開発および実施を、宇都宮大学地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科石井研究室、および基盤教育センター桑島研究室と協働で行った。

\*本成果は、研究開始後、宇都宮市からの同人材養成に関する研修企画及び、実施の依頼があり、それらの実施成果を整理したものである。今後これらの成果をもとに協働により、汎用性等を検討していく。

##### 実施の具体的内容

- ・協働による、事前に行われたワークショップにより得られた、施設職員のコーディネート課題に関するラベル分析
- ・協働による、計4回の研修プログラムの企画・ふり返り
- ・宇都宮大学研究チームによる計4回の研修の実施
- ・協働による、今後の研修プログラムの方向性の確認

事前ワークショップ  
・コーディネート課題の語り合いと共有

第1回勉強会  
・講義  
・コーディネート課題の要点の確認

第2回勉強会  
・コーディネート課題の要点を踏まえたケース紹介と分析①

第3回勉強会  
・コーディネート課題の要点を踏まえたケース紹介と分析②

第4回勉強会  
・コーディネート課題の要点を踏まえた自センターにおける事業プラン作成。参加者による相互クリニック

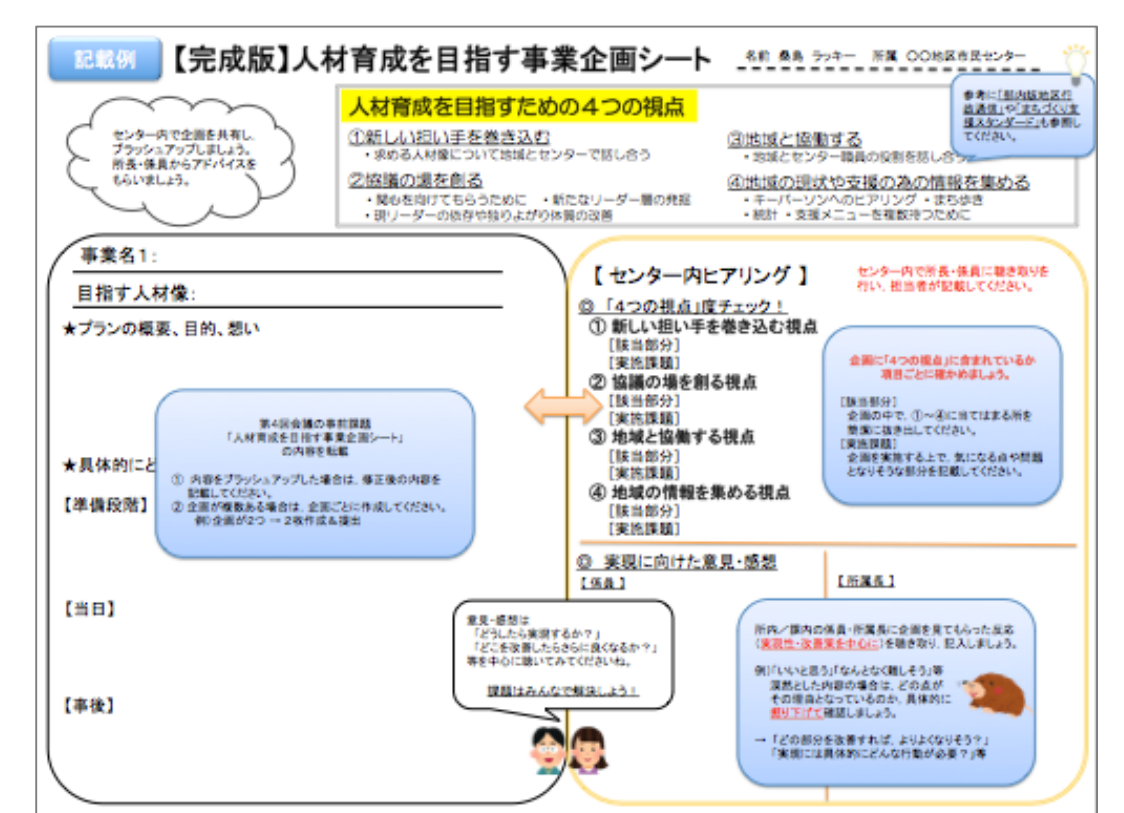
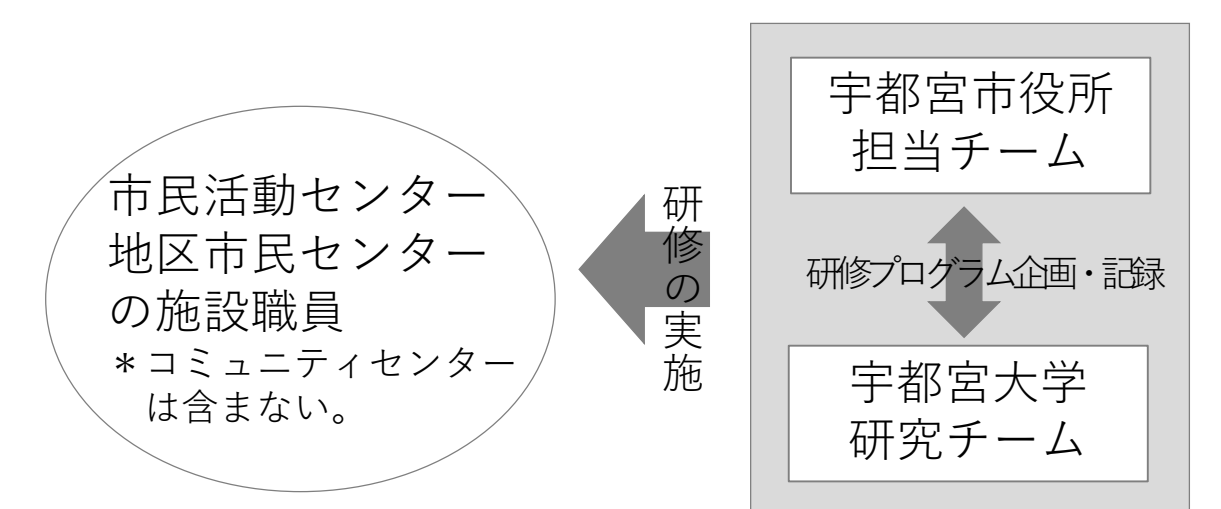
##### 得られた成果

施設職員のコーディネート課題として、以下の4点について、研修プログラムにおいて重視する必要性の高いことが示された。

新しい担い手を巻き込む    地域と協働する  
協議の場を創る    地域の現状や支援のための情報を集める

また実践へのフィードバックとして、研修参加者により、各施設における次年度計画への反映として、施設長ほか、他の職員と上記4点を共有し、それを踏まえた計画案の作成を行った。

##### 一実施体制一



各センターの事業企画シート案

#### 2. 地域住民のまちづくり技術向上に向けた人材養成

細谷地区まちづくり協議会が進める地区ビジョンづくりを、宇都宮市みんなでまちづくり課、北市民活動センター、がサポートしている。アクション・リサーチ型の研究手法により、宇都宮大学桑島研究室が、住民ワークショップのデザイン及び、当日のファシリテーションを担い、石井研究室を交え、住民の意識変化などに着目した分析を進めている。

##### 実施の具体的内容

- ・計9回のワークショップ開催の企画及び、当日のファシリテーションを実施。
- ・北市民活動センター、細谷コミュニティセンター、細谷地区住民リーダーとの協働によるリフレクションの実施。
- ・宇都宮大学研究チームによるアンケート作成支援
- ・地区住民リーダーと北市民活動センター担当者へのヒアリング調査（3月実施予定）

##### 得られた成果

アクション・リサーチは、現場と理論を結ぶプラットフォームの役割を持ち、研究者の知見を現場に生かす、また実践から得られた新たな情報を蓄積する役割を持つ。本年度は、アクション・リサーチ初年度であり、実践による情報の蓄積①これまでのワークショップデザインや、各回のプログラムの計画との相違、②新たに生まれる企画の内容、③各回のプログラムを経験したことによる住民の意識変化、などに関する情報を得た。なお③については、現在実施中である。

##### 一実施体制一

